



ミュージックスタジオ「ムジカーザ」

一人でも多くの人に音楽の素晴らしさを伝えたいと、指導に演奏活動にとがらばっています。

洋楽／ピアノ、シンセサイザー、歌

●童謡、唱歌

●世界の名歌及びミュージカルナンバー  
打ち合わせの時初めて目にした静かな舞台は「何かを待っている」という雰囲気でした。当日悪天候でしたが、周りには木々に覆われ川が流れ、ホールとは違った開放感を感じ、自然に溶け込んで純粋な気持ちで演奏する事ができました。新たな感動です。多くの人々の手によって眠れる舞台が目覚めたのです。農村舞台は、地域のコミュニティ、文化芸術の発信、交流の場等、様々な可能性を持っていると思います。今後に大いに期待です。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。（大田黒啓子）



ときめきダンスカンパニー四国

結成十五年。ダンスジャンルにとらわれず、幅広い表現方法でダンス活動を展開しています。その熱いステージには定評があります。

創作ダンス

●世界に一つだけの花（ダンス） ●生きているから（朗読） ●Good morning（ダンス） ●花が咲いた（朗読） ●DEAR KIDS（ダンス） ●見上げてごらん（朗読） ●またあえる日まで（ダンス）

自然の舞台に感動！雨の農村舞台に、子どもたちのダンス。雨に輝く新緑と可愛いカラフル衣装が不思議にマッチングした。傘をさして見てくださったお客様には大感謝しながらも自然の舞台が初体験の子どもたちは少し緊張気味。農村舞台は、優しさに包まれたステージが大きな魅力だ。お世話になった皆様、ありがとうございました。（田村典子）



音楽館「三三」(トウツナイ)

「街の中に音楽を」をモットーに、学校や施設にてコンサートを開催し音楽の魅力を伝える活動をしています。

洋楽／フルート・ピアノ

●愛の挨拶：エルガー ●花：滝廉太郎

●涙そうそう：夏川りみ

●リベルタンゴ：ピアソラ ●「カルメン」組曲メドレー（ハバネラ、行進曲、闘牛士の歌）

室内でコンサートを行う事がほとんど。の私たちにとって、農村舞台で西洋音楽を演奏する事は新しい挑戦でした。当日はあいにくの天候でしたが、雨模様で農村舞台はより一層情緒に溢れ、西洋音楽が遠く山々まで響き渡る様は、大変感慨深く、印象に残る公演になりました。これからも、人々が楽しめる場所として変わらず在り続けて欲しいと思います。（廣田祐紀）

### 復活は創造すること ——今山と拝宮の農村舞台公演を振り返って—— 大和武生

阿波の農村舞台は村人たちの心の拠り所「村の鎮守の神様」に存在する建物であるが、単なる建造物ではなく、精神的な拠り所であると共に村人の結束の象徴であった。

本誌の既刊号で既に触れたが、封建時代に村人が集会できる場所は、藩の方針を伝達する庄屋屋敷、仏事と村人の戸籍を取りしきる寺、それに定舞台と呼ばれた農村舞台しかなかった。それ以外の場所で大勢の村人が集会することは「謀反」に通ずるとして禁止されていた。神社境内の舞台での集会は、村人の自治権を行使できる村祭りの実行のために許されていた。そのため村人たちは資金や建材や労力を出しあって自分たちの舞台をつくった。貧しい村では江戸時代には舞台がつくれず、明治時代になってやっと建てた所も多い。

このため舞台の存在は村人の誇りであった。ここで村祭りの準備がなされ、貧しくプロの人形座を呼べない村では、自分たちで人形操りの練習をして秋祭りに披露した。また、連帯責任であった村年貢が完納したときには村人たちは食べ物を持ち寄って一杯のドブ酒で祝ったし、青年たちは「若衆宿」を開いて村の仕組みや人生の過ごし方を先輩たちから教えてもらった。このように村人結束の場が舞台



今山農村舞台の舟底舞台

限定された狭い土地に、経済的に切り詰めて、しかも出来る限りの舞台効果を挙げるため、実に千差万別の工夫を凝らして舞台をつくった。その村人たちの苦心の足跡を舞台は現代人に語りかけている。太夫座だけ見ても、舞台と別棟に建てたもの、舞台を一間だけ横に延ばした形式、蝶番を付けた大型の一枚板を外に出して細い柱で支える形式など、農民たちの独創的な工夫には驚かされる。農村舞台は農民文化の輝かしい証明でもある。

平成十六年五月の今山農村舞台で開催された、当地出身の文楽座人形遣い吉田文司さんの芸歴三十周年記念公演では生きた蛭が飛ばされた。平成十七年五月の拝宮農村舞台では、松小舎が演じた舞踊で、楽屋裏の窓を開けた借景と舞台前面の活用が相乗効果を挙げて、農村舞台の可能性を広げた。



蛭が飛んだ夜の今山農村舞台公演

私たち阿波農村舞台の会は結成以来、いくつかの農村舞台の復活に地域の人びとと協力しつつ大きな成果を挙げた。平成十五年十月の三好町法市の農村舞台復活公演では、住民の協力により俄かづくりの太夫座が設置された。



法市農村舞台の太夫座



拝宮農村舞台の借景



今山農村舞台保存会

阿波農村舞台通信の発行にあたり、今山農村舞台での公演の感想を述べさせていただきます。これまでも、勝浦座との共演で高津住男さんと劇団樹間舎の皆様、昨年度は、勝浦町出身の吉田文司さんと文楽座の皆様、それぞれに楽しい一日を過ごさせていただきました。今回は今までは違った、色々なジャンルの方々が、それぞれの持ち味で、尺八、洋舞、琴、三味線、ピアノ、フルート演奏、そして素晴らしい歌声や語りなど、種々のパフォーマンスを見せていただき本当にバラエティに富んだ楽しい一日でした。今までになかった、今山農村舞台の公演でありました。特に地元の勝浦高校の民芸部と、勝浦座との共演は、伝統を引き継ぐ大切な場所であるし、特に魂と歴史を引き継いでいる今を感じ感動しました。それから小学生以下の子供たちが、歌に合わせていっしょうけんめい踊っている姿がかわゆく、心温まる一時でした。そして途中大雨になったのですが、舞台前に設けた屋外舞台と、内舞台で二十名近くの女性が洋舞を踊っていたいた時に、外舞台で大雨に打たれたながらの熱演には、大きな拍手が沸き上がりました。

また、保存会メンバーが参加者の皆様にサーブスの一環として、うどんの屋台を開いて、皆様方に喜んでいただいたことも印象に残っております。